



正月 元日 修正会

ご挨拶

令和も二年目になります。令和元年は、御代替わりで、即位の礼やパレードのような華やかな行事もありましたが、天皇・皇后両陛下が自らお勤めになる大嘗祭などの重要な祈りの儀式も、私たちが知る以上に多く行われたようです。

全国の社寺でも奉祝の祭祀や法要が執り行われました。皇室とゆかりの深いお寺の多い真言宗の各本山でも、いろいろな形で慶祝・奉祝の法要が奉修されました。

ご存知かも知れませんが、真言宗の十八の総本山や大本山で構成され、須磨寺もその中に名をとどめている真言宗各派総大本山会という会があります。

その各派総大本山会主催の「天皇陛下御即位慶祝御大典奉祝法要」が仁和寺金堂に於いて、長谷寺の化主猊下であり本年度の

第31号

令和2年 正月号

発行所：大本山 須磨寺

〒654-0071

神戸市須磨区須磨寺町4-6-8

TEL 078-731-0416(代)

<http://www.sumadera.or.jp/>

金堂は京都御所の紫宸殿を江戸時代の初期に移築されたものだそうです。

その日は、お導師様と職衆が白書院から年に一度しか開かない勅使門を通り抜け、僧侶による雅楽を先導に、お導師職衆の全員が朱の大傘をさし、多くの方々が手を合わせ見守って下さる中、時代劇によく出てくる中門をくぐって金堂に向かい、堂内におられた多数の僧侶の皆さんと共に、今上陛下のご即位を祝い弥栄を祈念してまいりました。

ご即位のお言葉や大嘗祭での祈りなど、私たちも社会の安寧や人心の平和のために祈りを重ね、精進してまいりましょう。

合掌

大本山須磨寺 貫主

小池 弘三

真言宗長者である田代弘興猊下お導師のもと、各山御山主猊下と御重役の出仕により、令和元年十一月二十二日に厳修されました。先述しましたように、真言宗には皇室ゆかりのお寺が多く、法要の行われた仁和寺は宇多天皇による開山で、今の

十二佛に見守られて(11)

―観世音菩薩(上)―

摩耶山天上寺貫主 伊藤 淨厳

一、日本における観音信仰

日本への仏教の公伝は、六世紀の中頃と考えられている(五三八年説と、五五二年説がある)。その仏教受容の初期には、蘇我氏一族の崇仏派と、物部氏一族の麁仏派とに別れて激しい抗争があった。その後、仏教の伝来から一世紀余りは、釈迦如来や阿弥陀如来や弥勒如来などの諸尊は、素朴な現世利益の仏として拝まれた。従って、諸尊の誓願やご利益などの特徴は、明確に判別されていなければならぬ。だが、次第に仏の本誓やご利益などが理解されるようになり、本當の信仰が育っていったのである。

その初期の段階では、地藏菩薩や不動明王などに先立って、観音が人々の信仰を勝ち得たのである。その時期は大化の改新の直後頃と見られ、その祈願は、死者の冥福を祈る追善供養であったと考えられている。

ところが、奈良時代になると、観音のもつ呪術的な効験(功德)やご利益が広く認知されるようになった。そしてまず、天皇や皇族などの為政者にとつては鎮護国家を祈る対象となっていた。だが一方、一般庶民の間では、鎮護国家というよりも、自分たちに降りかかる畏怖や危難から救いとり、願いを叶えて下さる最も身近な慈悲の菩薩として信仰され

ていったのである。このように、皇族や貴族をはじめ庶民にも、観音は現世利益の仏として、つまり、現在この世で悩み苦しむ我々を救って下さる仏として信仰されるようになったのである。観音信仰は、その後も連綿として今日に至るまで広くかつ盛んであり、造られた仏像の数も群を抜いて多いのである。

二、観音菩薩の総称―施無畏者

観音菩薩の名は、観世音菩薩・観自在菩薩などと呼ばれ、親しみをこめて観音さんといわれている。観音は、人々の願いに応じて姿形を三十三に変化した三十三観音や、聖観音・十一面観音・如意輪観音・千手観音など、様々な像容の観音像が造られ、また描かれてきた。これらの多様な観音を引くくために変化観音という。(これらの観音の基本的な姿・標準的な姿は、聖観音とされている。)

以上のごとき観音の個別の名称とは別に、観音は総称して施無畏者(施無畏の聖)と呼ばれている。観音は済度(教化)する衆生に依じて、最も相応しい姿に変化するが、それぞれの観音に共通する慈悲のはたらきや功德を総称して施無畏者というのである。(ちなみに、観音を祀るお堂を施無畏殿ともいう。)

施無畏とは、三施(三種の布施)の一つである。三施とは次のごとくである。

①財施―困窮している他者(貧者や貧しい人、病氣の人など)に財物を施すこと。

②法施―悩み苦しんでいる人々に仏の教えを説くこと。(人々のために役立つ知識も含む)

③施無畏―財施・法施とは区別される特徴的な布施。悩み苦しんでいる人々の恐怖を取り除き、何物にも畏れることのない氣力を与えること。衆生(人々)の側からいえば、自分たちの抱える様々な畏れを取り除き、救済してくれること。このような観音の功德力はまこと無限大である。

ところで、参考までに、仏教が強調する布施の大事について少し述べておきたい。仏教では、布施は仏道修行の第一に挙げられる実践徳目なのである。布施は、梵語ではダーナといい、檀那と音写される。布施は本来、財施・法施を含めて自分の持てるものを、それを必要とする他者に惜しげもなく施すことである。要するに、この布施行は、仏道修行の最も肝要な実践行なのである。

一体に、自分が大切に所有しているものは、他人にあげたくないものだが、仏道の修行者は、その大切なものを惜しげもなく人様に施すよ

う努力するのである。

それは何故か。私たちが悟りから遠ざけているのは、我々の心の奥底に飽くなく煩悩・欲望があるからであり、その欲望が私たちの心を束縛し、執着の心を断ち切れないからである。布施行とは、その迷いの根源である煩悩欲望を断除し、私たちの心を束縛している執着から自己を解脱せしめる大事な実践行なのである。つまりは空の境地に達することが何よりも肝要だからである。従って、布施は、仏教の修行にとつて最も大切な実践徳目なのである。それ故に、六波羅蜜や四摂法などは、布施を修行法の第一に位置づけているのである。

◎六波羅蜜―順に布施・持戒・忍辱・精進・禪定・智慧波羅蜜。

◎四摂法―人々を救い導く四種の行為で、順に布施・愛語(やさしい言葉)・利行(人々に利益を与えること)・同事(人々と同じ立場に身を置くこと)



須磨寺 本堂 六観音「千手観世音菩薩」

除夜の鐘と 千巻心経法要のお知らせ

令和元年十二月三十一日、午後十一時四十五分より例年通り、参拝者の皆様に除夜の鐘を撞いていただきます。先着百八名の方々には、記念品の特別絵馬を授与します。百八番目までの整理券は、午後九時半に鐘撞き堂前にて配布します。

百九番目以降の方も、午前二時までは自由に鐘を撞いていただくことができます。

大晦日の夜当山境内にて、清らかな鐘の音と共に旧年中の煩惱を払い、清々しい気持ちで新しい年をお迎え下さい。

また、同時刻より護摩堂におきまして、千巻心経法要を執り行います。



当山管長導師のもと、旧年の厄を払い、新たな気持ちで新年を迎えられるよう、太鼓の音に合わせて般若心経を唱えます。

新しい年を迎えるに当たって、旧年にも増して皆で助け合い、仏様の智慧をいただき、明るい気持ちで過ごしていけるよう共にご祈念したいと思ひます。

修正会のお知らせ

令和二年一月一日午後二時より、当山本堂におきまして、新春開運修正会（大般若転読法要）を執り行います。

導師が経題を唱えた後に、職衆各々が経本を展開する「転読」という特殊な読みかたで、総数六百巻に及ぶ長大なお経「大般若経」を読誦します。その功力をもって皆様の家内安全、厄除開運から、国家安穩、世界平和に至るまで、一年間の無事を祈念します。

祈願札を申し込まれた方には当日本堂にお入りいただき、導師の加持した経本で身体を加持いたします。

新しい一年のご多幸を、皆様と共にご祈念したいと思います。



授与品

五千円 祈願札（木札）・破魔矢・

腕輪念珠

三千円 祈願札（紙札）・腕輪念珠

申込期限

一月一日正午まで

須磨寺寺務所にて承ります。

頼政薬師寺 鬼追い式

来る令和二年一月八日午前十一時半より頼政薬師寺において「鬼追い式」が行われます。

明治以前、頼政薬師寺では、毎年一月八日に薬師統人という、この里の人が集まる儀式があり、座敷に松竹梅の三宝を飾り、その上座には薬師如来をまつり、全員がかみしもを着用して謡曲で興がそえられました。この儀式に参加することによって初めて、村人として認められたと言います。夜には鬼踊りと称して仮面をかぶった鬼たちが里人を狂ったように追い回す鬼追い式が行われていました。この鬼追い式は、非常に有名で、当時の須磨の一番大事な祭りであったと伝えられています。

近年は僧侶が牛王杖で床を叩きながら読経し、地にいる鬼を追い払う儀式が行われ、形を変えてこの伝統行事が受け継がれています。

人々の繁栄と家内安全を祈る、伝統ある頼政薬師寺の鬼追い式には是非お参り下さい。



日時 令和二年一月八日（水曜日）

十一時半 開白

場所 頼政薬師寺

須磨寺駅から東に徒歩2分

参拝自由

お寺で学ぶ 周活 知恵袋

旅立ち後の遺せる「愛」

「墓所・納骨堂（ご遺骨）の意義」

日々色々のご相談をお伺いするのですが、「私が死んだらお骨はその辺に撒いて」「もうお葬式はいらんから」というお言葉をよくお聞きします。理由をお尋ねすると、経済的なことや日常の負担等をかけたくないということをお話される方が沢山おられます。遺されるご家族等を気遣うてのことかと思いますが、本当にそれでいいのでしょうか。盛大な葬儀や高価な墓石は必要ないと思いますが、遺される人々が「旅立つ人」（ご遺体・生前の姿）を感じながら共有できる最期の時間と空間が葬儀であり、ご遺骨をお納めした処が旅立った人に会える大切な場所になっていくのです。

一時、亡くなられた有名人や芸能人の墓所の所在地のガイドブックが話題になり、生前会えなかった方を身近に感じたい、生前の思い出に浸りたい想いから墓参するファン等がワイドショーで取り上げられたことがあります。少し違和感を覚えた方も少なくないと思いますが、戦国の武将や文豪等の歴史上の人物のお墓は旅行ガイドブックに掲載されていて、尊敬する歴史上の人物に想いを馳せて遺徳を偲びたいと墓参する人や観光スポット

トやパワースポットとして訪れる方も沢山おられます。また、お坊さんも宗祖、流祖、開祖、歴代の住職方等の墓参を致します。お叱りを受けるかもしれません。が、私は墓参を「お会いしに行く」と考え、昔の偉いお坊さんの遺徳を偲びつつ、自己の日常を回顧したり、自身の進むべき路や迷い事をお尋ねしたりしています。

ご遺骨を大切にして故人を偲ぶ習慣が私たちにはあります。だからこそ、『ご遺骨』のある場所は有縁（夫婦、パートナー、親子、兄弟姉妹、知人友人等々）の方にとって非常に大切な場所、すなわち旅立ち後に大切な方に会える場所に他ならないのです。夫婦なら第2の我が家、親子なら第2の実家としての大切な役割を担う場所なのです。本来であれば仏壇に奉安したお位牌をお参りして頂くのが一番いいかと思いますが、色々な事情でそれが叶わない方も少なくないと思います。あなたが旅立った後に、あなたにとって大切な人が他人の目をはばかることなく、ゆつくり会ってお話しできる場所を遺して逝くことを今一度考えてみて下さい。旅立つ人から遺される人への「愛」の一つに他なりません。

蓮生院 一月から三月までの行事予定

蓮生院 死生観くっちゃべり会

参加者にはそれぞれ死生観について語り合う（くっちゃべる）集まりです。自分や他人の死生観に触れることで世界観を広げてみませんか？お寺の静かな空間で体験してみましよう。

日 時…二月十六日（日） 十四時～十六時
場 所…蓮生院客間 参加費…千円
持ち物…筆記用具・お飲み物 講師…山脇由記子

写経・瞑想体験会

お寺で写経と瞑想の体験会を致します。気軽にできる写経・瞑想体験ですので、今まで経験がない方でも是非ご参加ください。また瞑想会の後にお茶を出させていただきますので、心身共にゆったりとしてください。（写経のみ、瞑想のみの参加も可能です。足を組みやすい服装でお越しください）

日 時…一月二十五日（土）、二月十一日（火）
三月二十九日（日）
写経会 十四時～十五時半
瞑想会 十六時～十七時半（受付は三十分前から）
場 所…蓮生院本堂
参加費…写経五百円・瞑想会千円

いづれも事前申し込み制です。

前日までに蓮生院の寺務所にてお申し込み、またはお電話でお申し込みください。

蓮生院電話番号 ○七八ー七三一―二三二一

真言宗 十八本山 お砂ふみ

in 須磨寺

体感

真言密教

「お砂ふみ」とは、霊場札所のお砂を集め、その砂をふみながらお参りする事で、実際に巡礼したのと同様のご利益を得られるものです。

真言宗の十八本山が集結するこの機会に、ぜひお参りください。

お砂ふみ記念の「御守」をお渡しします（限定千体）



全真言宗青年連盟
Shingon Young Buddhist Federation

お問い合わせ お砂ふみ事務局

TEL 080-4074-7290

(電話受付 平日10:00~17:00)

✉ zsr.event@gmail.com

※須磨寺様へ直接のお問い合わせはお控えください

<http://www.kobodaishi.jp>

※念珠作り、塗香作り、写仏は別途材料費等を頂戴致します

須磨寺へは山陽電車が便利。須磨寺駅から商店街を抜けて徒歩5分です。



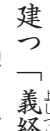
「駐車場台数には限りがありますので、おこしの際は公共交通機関をご利用ください」

須磨寺
青年会
第十回
大峰山修行

吉野から
奥駈け道へ

「吉野なる深山みやまの奥の隠れ塔かく　本来空の住家すみかなり
けり」「オンアビラウンケンソワカ」「南無高祖神変じふべん
大菩薩」と、五人の行者が唱え終わるや否や、いきな
り「ガアッーン！ガアッーン！ガアッーン！ガアッー
ン！ガアッーン！・・・」と、十数回立て続けに、頭
上で大きな鐘が神官によって打ち鳴らされた。真つ暗
で何も見えないお堂の中、右手の指先に触れた壁を頼
りに、ゆつくりとお堂を周回していた行者達も、鼓膜こまく
が破れんばかりの突然の大音響にびっくりして思わず
その場に立ちすくんでしまう。神官がお堂の扉を開け
て、外の明るい光を全身に浴びた五人の行者達。外の
新鮮な空気を吸って、やつと我に返ったようだ。「びっ
くりしたなあー！」と、皆で言い合いながら参道へと
戻っていった。

ここは、奈良県吉野の金峯神社の境内に建つ「義経よつねの隠かくれ塔」。別名「蹴け抜けの塔」。地元の人々は「ガンガン塔」とも呼んでいる。その昔、源義経よつね（注）が追つ手から逃れるために、塔の屋根を蹴破けやぶつて脱出したこの場所は、大峰山修行場の一つでもある。



令和元年七月二十二日、須磨寺青年会主催第十回目の大峰山修行は、ここ「義経の隠れ塔」で秘密の儀式を受け、五人の行者の身心を浄めることから始まりました。

二日目の二十三日は、午前三時過ぎ、ブール地点の「山上ヶ岳」を目指して、大峰山奥駈おくがけ道を吉野から歩き始めます。まだ夜も明けぬ、あいにくの雨の中を、ヘッドライトで照らされた足下に集中して一歩一歩進んで行きました。闇に包まれた山道を歩くのは大変に危険で



心細いものです。だからこそ先頭を歩く先達を信じて、行者達は無言のまま心をつつにして一丸となつて付き従つて歩きました。朝になり、陽が昇つてからは、心にも余裕が出来、歩く速さもアップしていききました。いつものまにか雨も上がり、難所の「鍋冠行者堂」「蛇腹坂」も易々と越え、昼には洞川村から入峰してきた三人の行者とも合流して、午後四時予定通り「山上ヶ岳」に到着。歩行距離二十四km、歩行時間は十三時間程でした。

翌朝、本堂で御開帳中の御本尊藏王権現ざおうこんげんに八人の行者全員で参拜。有り難い、お姿を拝しつゝ、修行が無事に成就じょうじゆ出来たことに深く感謝して、般若心経をお唱えさせて頂きました。「南無神変大菩薩、南無神変大菩薩、南無神変大菩薩」合掌。

（注、須磨寺境内大師堂の前には、源義経が腰掛けした「源義経腰掛けの松」があります）

須磨寺の歴史
〈二十四〉

—蓮華三昧院(四)

中世の高野山には念仏行者のグループが三つあったと言われています。

一つ目は連華三昧院開祖の明遍上人が作った念仏社友というグループで、連華三昧院や高野山の谷中の明遍の別邸であつた金剛院を中心に活動していて、このグループは一六〇〇年頃まで明遍堂に出仕していたという記録があります。

二つ目は萱堂派というグループで、このグループは臨済宗の僧侶で法燈国師の諡号を受けた覚心の法脈の末派です。

三つ目は時宗派というグループで、時宗というのは一遍上人が熊野権現の神勅によつて修行し開いた宗派で、一遍が高野山の千手院谷に宿泊して以来より踊念仏を勤め始め、その流儀を学ぶものは数えられないほど大勢いたと言われています。また、千手堂近くにある熊野権現小社は一遍が勧請したもので、一六〇〇年頃までこのグループがこの小社の寺務を執り行つていたという記録があります。

以上のように中世には三つの念仏行者、もしくは念仏聖のグループに分かれていましたが、江戸時代の慶長十四年に徳川家康の命によりすべての聖方を真言門派とし、明遍の旧流、つまり古い伝統に従うように決め、三つのグループをまとめて一つになりました。これは幕府による宗教統制の一環であると思われますが、同時に蓮華三昧院こそが念仏行者の中心を占める名門寺院であつたからと推察できます。

※蓮華三昧院と須磨寺は、本山末寺の關係にありました。

仏師逍遙

枇杷の花が咲いています。

うーんと幼い頃の誕生日の朝、枕辺にそつと置かれていたプレゼントのようにやわらかい冬の日ざしの中で、華やかという言葉からは遠く、香りもいかにも慎ましやかで、生け花の対象とはならなくても、これほど花ひらく「いま」と言う時を喜び、それがそのまま総りの喜びに繋がってゆく花はありません。

「びわは

やさしいきのみだから

だつこしあつてうれている…」

まどみちおさんの詩といっしょに、神楽鈴に似た枇杷の実がふと頭に浮かんできました。

年が満ちてくると、毎年のようにその一年の額縁に「激動」の名札が付く時代です。激しい流れを乗り切ることが課せられた現代人には、その時々の中にも似合った進化と、進化を恐れない心が求められています。

などと、らしくも無いことを考えているのも、年の瀬の数え日のせいでしょうか。

十年一日、座職のひざ掛けの上には、削り取られた小さな木片が積み重

なり、身ほとりに木の香りが満ちています。工房の壁のカレンダーにふと眼をやると、須磨寺桜寿院さまにお納め成った「融通」というお名前の八臂弁財天様の、ふくよかな微笑みが咲いています。

不思議なことにこの二年ほどは、弁



財天さまの彫像が続きました。始まりは須磨寺様からご依頼いただいた一弦琴を奏でるひとすじ弁財天さま、立像の弁財天さまが九州で二体、桜寿院様の融通弁財天さまは四体目、お納めは葉桜が風にそよぐ五月、ほととぎすの声を聞きました。

思いおこせば工房に樹齢百五十年を

越える木曾檜が、長野県南木曾から届いたのは、その三年前。細い糸のような春雨の中、五メートルの角材を二人掛けで抱えて車の荷台から降ろしました。仏像の彫像は材料の良し悪しが大切なことは言うまでもありません。

素晴らしい檜の木目には、木曾山中

に流れた悠々の時間が込められています。てのひらを当てれば南木曾の百五十年の昼と夜の冷ややかな湿りが伝わってきて、深山の小鳥たちの囀りさえも聞こえてくるような気がします。

職人の楽しい時間は、彫刻という名のやさしい引き算の繰り返しです。刃

物を研ぎながらそのまま自分が研がれるように、ほとけさまのお姿をなぞりながら、仏師である身がどんなに癒されているものか測り知れません。

弁財天さまの大河のような、海のような大らかさと、水の持つ途方も無いのちの力を求めて、彫刻刀をひたすら研ぐことを重ねました。

完成したお身体に、数ヶ月をかけて施された美しい截金は、弁財天さまを静かにつつみ、慈しむようにやさしい距離を作ってくれています。

仏師を目指して生きてきた五十年に、また新しい一年が重なりました。年齢を重ねるということは、体の中に沢山の季節を持っているということです。

古希を過ぎて今もお、松の内が明けて誕生日が近づくと、子供の頃に炊いてもらった餅米の入らない赤飯の、パサパサの味を懐かしく思い出します。そんな宝物をいつまでも忘れずにいたいと、工房の窓越しに見える枇杷の花に眼を置いたまま、木の香りの中に座していました。

天職と言ふ幸せの

枇杷ひらく

須磨寺大仏師 山高龍雲

令和2年 年間行事 予定表

令和2年 年忌数え年早見表

1月	
■ 1日(元旦)14時	開運修正会(大般若転読) 須磨寺本堂
■ 3日	10:12・14時 正月特別護摩祈禱 本坊護摩堂 11時半 薬師寺鬼追い式 頼政薬師寺
■ 8日	5時30分 大震災物故者慰霊法要 須磨寺本堂
■ 17日	10時 大震災物故者慰霊法要 本坊客殿
■ 28日~2月3日 5時15分 寒行(星祭護摩祈禱) 本坊護摩堂	
2月	
■ 3日	10:14時 節分星祭護摩祈禱 本坊護摩堂 15時 節分星祭祈禱 蓮生院 13時から16時 節分星祭祈禱 桜寿院
■ 12日	15時 須磨寺先師忌土砂加持法要 本坊客殿
■ 29日	十八本山お砂ふみ 青葉殿
3月	
■ 1日	14時 平敦盛・源平戦士追悼法要 須磨寺本堂
■ 7日	14時 敦盛祭 須磨浦公園 敦盛塚
■ 11日	14時30分 東日本大震災 自然災害物故者慰霊法要
■ 17日~23日 彼岸会(特別護摩祈禱)	
4月	
■ 4日	13時 十三まいり
■ 6日~8日	花まつり 灌仏会 甘茶お接待
■ 17日	9:12・15時 青葉殿 納骨供養祭
5月	
■ 24日	13時 青葉会 青葉殿
6月	
■ 15日	10時 弘法大師降誕会 本坊大師堂
7月	
■ 30日	子供寺子屋修行
8月	
■ 9日	18時 四万六千日法要(みあかり観音)
■ 12日~15日	盂蘭盆会
■ 15日	10時 盆大施餓鬼法要(本坊) 本坊客殿
■ 17日	9:12・15時 青葉殿盂蘭盆会法要 青葉殿
■ 19日	14時 盆大施餓鬼法要(桜寿院) 桜寿院本堂
■ 20日	14時 盆大施餓鬼法要(蓮生院) 蓮生院本堂
9月	
■ 19日~25日 彼岸会(特別護摩祈禱)	
10月	
■ 4日	シベリア戦没者慰霊祭 シベリア慰霊碑
11月	
■ 23日(祝)11時	須磨の火祭り 柴燈護摩 本坊
12月	
■ 31日	23時45分 千巻心経護摩法要 本坊護摩堂 除夜の鐘 鐘樓堂 (21時30分 除夜の鐘 整理券配布)
■ 毎月18日 10時 写経会 本坊客殿	
■ 毎月20・21日 お大師さん(縁日)	
■ 毎月3・8・13・18・20・21・23・28日 10時 護摩祈禱	

ね	い	いぬ	とり	さる	ひつじ	うま	み	たつ	う	とら	うし
子	亥	戌	酉	申	未	午	巳	辰	卯	寅	丑
令和2年	令和元年	平成30年	平成29年	平成28年	平成27年	平成26年	平成25年	平成24年	平成23年	平成22年	平成21年
1 ●	2 ●	3 ●	4 ●	5 ○	6 ●	7 ●	8 ○	9 ○	10 ●	11 ●	12 ●
羅喉星	土曜星	水曜星	金曜星	日曜星	火曜星	計都星	月曜星	木曜星	羅喉星	土曜星	水曜星
平成20年	平成19年	平成18年	平成17年	平成16年	平成15年	平成14年	平成13年	平成12年	平成11年	平成10年	平成9年
13 ●	14 ○	15 ●	16 ●	17 ○	18 ○	19 ●	20 ●	21 ○	22 ●	23 ○	24 ●
金曜星	日曜星	火曜星	計都星	月曜星	木曜星	羅喉星	土曜星	水曜星	金曜星	日曜星	火曜星
平成8年	平成7年	平成6年	平成5年	平成4年	平成3年	平成2年	平成元年	昭和63年	昭和62年	昭和61年	昭和60年
25 ●	26 ○	27 ○	28 ●	29 ●	30 ○	31 ●	32 ○	33 ●	34 ●	35 ○	36 ○
計都星	月曜星	木曜星	羅喉星	土曜星	水曜星	金曜星	日曜星	火曜星	計都星	月曜星	木曜星
昭和59年	昭和58年	昭和57年	昭和56年	昭和55年	昭和54年	昭和53年	昭和52年	昭和51年	昭和50年	昭和49年	昭和48年
37 ●	38 ●	39 ●	40 ○	41 ○	42 ●	43 ●	44 ○	45 ○	46 ●	47 ○	48 ○
羅喉星	土曜星	水曜星	金曜星	日曜星	火曜星	計都星	月曜星	木曜星	羅喉星	土曜星	水曜星
昭和47年	昭和46年	昭和45年	昭和44年	昭和43年	昭和42年	昭和41年	昭和40年	昭和39年	昭和38年	昭和37年	昭和36年
49 ●	50 ○	51 ●	52 ●	53 ○	54 ○	55 ●	56 ●	57 ○	58 ○	59 ○	60 ●
金曜星	日曜星	火曜星	計都星	月曜星	木曜星	羅喉星	土曜星	水曜星	金曜星	日曜星	火曜星
昭和35年	昭和34年	昭和33年	昭和32年	昭和31年	昭和30年	昭和29年	昭和28年	昭和27年	昭和26年	昭和25年	昭和24年
61 ●	62 ○	63 ○	64 ●	65 ●	66 ○	67 ○	68 ○	69 ●	70 ●	71 ○	72 ○
計都星	月曜星	木曜星	羅喉星	土曜星	水曜星	金曜星	日曜星	火曜星	計都星	月曜星	木曜星
昭和23年	昭和22年	昭和21年	昭和20年	昭和19年	昭和18年	昭和17年	昭和16年	昭和15年	昭和14年	昭和13年	昭和12年
73 ●	74 ○	75 ○	76 ○	77 ○	78 ○	79 ○	80 ○	81 ○	82 ○	83 ○	84 ○
羅喉星	土曜星	水曜星	金曜星	日曜星	火曜星	計都星	月曜星	木曜星	羅喉星	土曜星	水曜星
昭和11年	昭和10年	昭和9年	昭和8年	昭和7年	昭和6年	昭和5年	昭和4年	昭和3年	昭和2年	昭和元年	大正14年
85 ○	86 ○	87 ○	88 ○	89 ○	90 ○	91 ○	92 ○	93 ○	94 ○	95 ○	96 ○
金曜星	日曜星	火曜星	計都星	月曜星	木曜星	羅喉星	土曜星	水曜星	金曜星	日曜星	火曜星
大正13年	大正12年	大正11年	大正10年	【大厄】 男性:41歳・42歳・43歳 女性:32歳・33歳・34歳							
97 ●	98 ○	99 ○	100 ●								
計都星	月曜星	木曜星	羅喉星								

令和2年の当たり星の吉凶表

○	○	●	●	○	●	●	●	●	●
大 木曜星	大 月曜星	大 計都星	大 火曜星	大 日曜星	半 金曜星	末 水曜星	半 土曜星	大 羅喉星	九曜星
この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安んずる心と油断を怠らぬよう、下さい。人のためにも尽くして下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安んずる心と油断を怠らぬよう、下さい。人のためにも尽くして下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安んずる心と油断を怠らぬよう、下さい。人のためにも尽くして下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安んずる心と油断を怠らぬよう、下さい。人のためにも尽くして下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安んずる心と油断を怠らぬよう、下さい。人のためにも尽くして下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安んずる心と油断を怠らぬよう、下さい。人のためにも尽くして下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安んずる心と油断を怠らぬよう、下さい。人のためにも尽くして下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安んずる心と油断を怠らぬよう、下さい。人のためにも尽くして下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安んずる心と油断を怠らぬよう、下さい。人のためにも尽くして下さい。	この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、安んずる心と油断を怠らぬよう、下さい。人のためにも尽くして下さい。

令和2年 年忌一覽

一周忌	令和元年	亡	二十五回忌	平成八年	亡
三回忌	平成三十年	亡	二十七回忌	平成六年	亡
七回忌	平成二十六年	亡	三十三回忌	昭和六十二年	亡
十三回忌	平成二十年	亡	三十七回忌	昭和五十九年	亡
十七回忌	平成十六年	亡	五十回忌	昭和四十六年	亡
二十三回忌	平成十年	亡	百回忌	大正十年	亡